

## 危険な野生生物

三瓶山には私たちにとって危険となりうる動植物がいる。それらを見分け、避ける方法を学ぶことが重要だ。最も一般的なのはスズメバチなどの攻撃的なハチで、中でも、ここでハチの巣の横に展示されているオオスズメバチは最大のものだ。スズメバチの成虫は体長 4 センチを超えるものもあり、針から非常に大量の毒液を出し、強い痛みを引き起こし入院しなければいけない場合もある。同じケースには他にも攻撃的なハチが展示されている。右から時計回りにキイロスズメバチ、クロスズメバチ、3 匹のミツバチ、フタモンアシナガバチ、ヒメホソアシナガバチだ。ハチの巣は現地のアシナガバチの第 3 種であるセグロアシナガバチのものだ。2 番目のガラスケースに展示されている種類のものたちは攻撃的な昆虫に似ているが実際には無害である。

三瓶山には 2 種類の毒蛇が生育している。マムシとヤマカガシだ。マムシはとても危険で、噛まれると通常は一週間以上入院しなければならない。時には死に至ることもあるが、それはおよそ 1,000 件のうち 2 件程度だ。ヤマカガシもまた毒があるが、普通は出くわしたとしても逃げてゆくか、警告として赤い毒腺を見せる。ヤマカガシに噛まれたのは過去 100 年でたった 29 人だ。

避けるべき植物もある。ツタウルシやウルシの葉に触ると肌がかぶれてかゆみや水ぶくれができることがある。そのような危険はあるが、ウルシの毒性がある樹液は伝統的な日本の漆器を作る際に使われる。

三瓶山の森林には毒キノコもある。テングタケだ。茶色の帽子には白い、恐ろしい点々があり、夏や秋に森林地帯に出現する。食べると幻覚を見たり気分が悪くなったり、ひどい場合は死に至る。